

件名「ドラム缶3万5千本にさび 廃棄物保管中、原子力機構」

令和7年2月13日（木）共同通信配信

令和7年2月14日（金）茨城新聞21面 他

記事概要

- 原子力科学研究所で保管している低レベル放射性廃棄物入りのドラム缶約3万5千本の表面にさびがあったと、2月13日の原子力規制委員会で機構が報告した。
- 内部もさびたドラム缶もあったが廃棄物が漏れるような損傷は無かった。
- さびを確認したのは、地下に設置した鉄筋コンクリート製の施設に保管中のドラム缶。施設は1964～1976年度に設置され、一部で腐食や漏れが見つかったため、2019～24年にドラム缶を点検した。
- 表面のさびの原因は空気中の塩分や水分を含むほこり、内部のさびの原因は廃棄物内のぬれた布などとみている。
- 機構はすでにぬれた廃棄物をドラム缶に入れず対策を実施済み。今後はほこりを防ぐシートをかけるほか、保管期間が長いドラム缶を優先して点検する。

事実関係

上記の記事で取り上げられているドラム缶のさびの発生状況の点検及び補修等の経緯に係る事実関係は以下のとおりです。

- 2019年3月、低レベル放射性廃棄物を保管しているドラム缶の点検及び補修等の作業計画を原子力規制委員会に報告
- 2019年度から同作業計画に基づいてドラム缶の点検及び補修等を実施し、進捗状況を適宜原子力規制委員会に報告
- 2024年3月、ドラム缶の点検及び補修等が完了し、その結果を2024年12月に原子力規制委員会に報告
- 2025年2月、今後の管理方法等について原子力規制委員会に報告

以上